

最もやわじい「GDPと経済成長」の話 後編

前編の vol. 59 で「経済成長は飽くまで結果であって目的にしてはいけない。経済成長する事自体が目的であれば、本当になりふり構わなくなる。でも、今の日本社会はそういう風潮があるのではないか？」と述べました。理由を述べます。それは、高度経済成長によっていろいろな問題を解決してきた過去があるため、その経験・考え方を切り離せなくなっている。という仮説を私が持っているためです。経済成長は必ずしも全ての解決策にならないです。人々の生活の質を高める事が結果として、経済成長に繋がる事があります。逆に経済成長をするためには質を落とす事もあります。全てを犠牲にして経済成長だけを求めると「国破れて企業あり」みたいになります。それでは本末転倒であり、バランスを考えていく必要があります。そのひとつとして、vol. 26 「できるか？脱エネルギー依存社会の構築」で述べた「お金とエネルギーを問わずに得られる幸せもいっぱいある。」等も改めて考える必要があります。つまり、成熟した社会とは「経済成長の質を問える社会」なのです。：ここからは、私はどうするか。という決意も込めて。外をキョロキョロして、インターネットで検索をかけて、世の中どうなっているんだろう？どんな風に向かうんだろう？と外に答えを探すだけでなく、逆に目を閉じて、自分は何がしたいんだろう？どうなったら幸せなんだろう？と自分の中から答えが湧き出るような自分でありたいです。1期目の独身の時のように、自分の考える理想だけに向かって、がむしゃらに向こう見ずな議員活動「だけ」に埋もれるのではなく、新しい家族に向き合って、子育て等も通して、できる限り一生活者として、結果的に自分の感覚が世の中とマッチするように生きるのが良いのでは：と考えています。政治家は普通の人であれ。何をやるにも自分自身が問われるのだと考えています。試行錯誤の毎日です。：前々回に続き、難しいテーマである。と重々承知しておりますが、やはり言いたい事はひとつです。みなさんで「私たちの望む社会」を話し合ってください。個々人の想いが集まれば、良い社会が形成されます。今日も1日、素敵な日を過ごさせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成28年8月29日

増田好秀